写真提供：地域医療連携室　Kさん

地域連携室便り

愛媛県立中央病院
地域医療連携室

No.41（2023年10月）

直通TEL　089-987-6270（前方連携）
089-947-1165（後方連携）
FAX　089-987-6271

紅葉の候、皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、この度　地域連携室便り No.41 10月を刊行いたしました。気軽に読んでいただけるようにと考えておりますが、皆様方からのご意見をいただければ幸いです。聞きたいこと・知りたいこと等、ぜひお知らせください。この機会にぜひメール登録をよろしくお願いいたします。

今回の内容

❶ がん相談支援センターをご紹介します ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 箱岡由香
❷ 新センター長ご挨拶 （小児医療センター長） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 山本英一
❸ 診療科紹介～循環器内科～
今、私たちが力を入れていること！ こんな患者さん、いらっしゃいませんか？ ・・・ 日浅豪
❹ 第130回医療連携懇話会について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 阿部恵美子
❺ 文句の多い医者のつぶやき ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 岡本賢二郎
❻ 地域医療連携室からのお知らせ～登録お申し込み方法について～

がん相談支援センターをご紹介します

地域医療連携室　看護長　箱岡由香

平素は、地域医療連携室・がん相談支援センターの運営にご協力いただきありがとうございます。がん相談支援センターは、「がんに関する相談窓口」として各がん診療連携拠点病院に設置され、入院歴や受診歴を問わず、患者さんやご家族、地域の方々からの相談に対応しています。当院がん相談支援センターでは、医療ソーシャルワーカーや看護師が相談にのり、必要に応じて各部門と連携しています。

がんと診断され不安な気持ちを話したい、治療や療養先の選択、療養生活や家族との関わり方を相談したいなど、さまざまなご相談に応じています。患者さん、ご家族だけで悩みを抱え込まずに済むよう、不安や気がかりが軽減されるように支援していきます。このような患者様には気軽にがん相談支援センターをご紹介ください。

また当院では、がん患者さん・ご家族の交流の場としての「みきゃんサロン」や市民公開講座を開催しています。どちらも当院のホームページで確認できますので、ぜひご利用ください。

市民公開講座について　がん相談について　みきゃんサロンについて Click!

<全てのリンク先> 愛媛県立中央病院ホームページ

❷新センター長ご挨拶

小児医療センター長　山本英一

令和5年4月から、小児医療センター長を任命されました小児科の山本英一（やまもとえいいち）と申します。

虐待防止委員会委員長、医療安全管理部副部長を兼任しています。松山市出身で、御幸中学校（現松山東中学校)、松山東高校、愛媛大学と地元で学び、愛媛大学医学部附属病院小児科に1990年4月に入局しました。愛媛大学医学部附属病院で2年の研修後、初めて転勤となった病院がここ愛媛県立中央病院で、新生児内科でした。その後、愛媛大学医学部附属病院と当院と、行ったり来たりしています。今回は2012年に転勤してから、11年目になります。そして当院での勤務年数は、私の医者人生の半分を超えました。

小児科には、サブスペシャリティがあり、私は小児循環器を専門にしています。私は、前述の通り生まれも育ちも仕事も松山市でありますが、2000年に4か月間、一度だけ、東京にある東京女子医科大学小児循環器内科で研修をさせていただきました。研修後は、当院や愛媛大学附属病院小児科で、先天性心疾患の診断および心臓カテーテル治療を中心に診療にたずさわってきました。当院循環器内科では成人においてTAVIやPCIをされていますが、小児でもカテーテル治療はどんどん進んできています。愛媛県では、医療資源の効率化、経験の向上、マンパワーの有効利用のためには、施設の集約化が必要であり、小児のカテーテル治療は現在愛媛大学医学部附属病院で行っています。当院においての小児循環器診療は、川崎病、心雑音などからの先天性心疾患のスクリーニングを中心に行っています。

さて、当院小児医療センターは、5階の一般病棟ではありますが、小児（15歳以下）の患者さんに特化した病棟です。愛媛県の小児救急医療の中心として、小児内科に限らず、小児外科をはじめ、脳神経外科、整形外科、形成外科、耳鼻咽喉科、泌尿器科などの小児患者も当病棟で対応させていただいています。病気がよくなることはもちろんですが、患児である子どもたちとその家族に優しく対応し、今何が大切かを、診療科や職種間を越えてスタッフ全員で考えています。

当院は、血液腫瘍、自己炎症性疾患、医療的ケア児などの重症な慢性疾患の子どもの診療も多く行っていますが、2次、3次の小児救急患者を主体に対応しています。その中には、内因性の疾患だけでなく、不慮の事故、児童虐待、災害医療などもあります。小児重症患者は，小児循環器治療と同様、小児ICUに集約して治療を行うことで治療成績の向上が得られることが海外において証明されており，日本でも小児重症患者の集約化が進みつつあります。しかし、当県をはじめ地方部では、まだまだその集約化は整備されていないのが現状です。

愛媛県の出生数は、2015年には10,120人でしたが、令和4年には7,999人となり、8,000人を切りました。今後も徐々に減少していくことはあきらかです。とはいえ、小児医療をおろそかにするわけにはいきません。松山圏域では、小児医療に携わる小児科医すべて松山市内/外、勤務/開業の枠組みを超えた広域協力体制で一次医療から三次医療を対応しています。開業医の先生、勤務医の先生大変お疲れ様です。感謝です。松山圏域の広域化だけでなく、東予、南予からもドクターヘリなどで搬送され、愛媛県全域での広域化もすすんできています。実は、2021年の全国の乳児死亡率は1.7ですが、愛媛県では1.5であり、小児に関わるすべての医療者のがんばりでレベルは維持されています。

前述したように、他県では子ども病院が存在しますが、当県にはありません。小児重症疾患症例は、当院では成人と共有のICUに入院させていただいています。そのおかげで、医療や看護は集中治療医やICU等のスタッフにも大変ご協力いただき、アドバイスをいただき、愛媛の医療の質が維持されています。これからも、愛媛の小児重症疾患の診療が小児専門施設に劣らぬように、常にアンテナをはって、最新の診療ができることを心がけていき、小児集中治療を含めて小児医療が、ますます発展向上していくことを目指します。

そして、一人でも多くの子どもたちとその家族が笑顔で帰れますように。

今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

小児科はコチラから Click!
<リンク先> 愛媛県立中央病院ホームページ

❸診療科紹介 ～循環器内科～
今、私たちが力を入れていること！ こんな患者さん、いらっしゃいませんか？

循環器内科　主任部長　日浅　豪

心房細動でDOACやワーファリンを内服中に、

- ✓ 消化管出血を起こした患者さん
- ✓ 頭蓋内出血を来した患者さん
- ✓ 転倒して怪我をした患者さん
- ✓ 透析中でありながら抗凝固療法をやめられない患者さん
- ✓ 心原性塞栓症を繰り返す患者さん

これらの患者さんは **経皮的左心耳閉鎖術（WATCHMAN）** をご一考ください。

2023年9月1日現在、循環器内科は12名のスタッフで診療にあたっています。世界標準の治療を愛媛の地で提供できるよう、これまでにTAVI、マイトラクリップなどの低侵襲カテーテル治療を導入して参りました。弁膜症と同様、高齢化に伴い有病率が高くなる疾患の一つが「心房細動」です。カテーテルアブレーションにより根治を目指すことが可能ですが、全ての症例に有効ではありません。心房細動の最も深刻な合併症が心原性脳塞栓症であり、ノックアウト型脳梗塞と言われるように高度の神経障害、後遺症を残し、時に致死的となります。梗塞リスクが高い症例では抗凝固療法が広く行われていますが、一方で出血性合併症が問題となります。塞栓子である血栓の９割は左心房から突出する左心耳内に形成されますが、このわずか数cmの臓器のためだけに強力な抗凝固薬を全身に作用させ続ける必要があるでしょうか？絶対に必要な臓器でないのなら、そこを狙い撃ちして治療してしまえば良いと考えるのが、むしろ自然な流れかも知れません。この問題を解決すべく、カテーテルによる経皮的左心耳閉鎖術が2019年に本邦に導入され、当院でも2021年から施行可能となりました。最新デバイスであるWATCHMAN（ウォッチマン）FLXシステムは安全性・有効性が格段に向上し、より多くの患者さんに適するように改良が加えられています。手術時間は1時間程度で、数日間の経過観察で退院可能となります。治療後一定期間は抗凝固薬の継続が必要となりますが、やがて休薬することができ、出血リスクを抑えながら脳梗塞の予防が可能となります。

前述のTAVI、マイトラクリップに比べ、実はWATCHMANの症例数は伸び悩んでいます。心房細動自体は無症状のことも多く、抗凝固薬の内服で困っていないのにリスクを冒して侵襲治療を受けたくない、という心理が働くのは当然かも知れません。しかし、静脈アプローチで侵襲性が低いことに加え、PINNACLE FLX 臨床試験によるとWATCHMAN FLXシステムを用いた手技は極めて安全（手技に伴う全死亡、緊急手術: 0%）かつ有効（12ヶ月時点の左心耳閉鎖率: 100%）であることが報告されています。DOAC内服中に年間数％の重篤な出血イベントが発生することを考えると、対象症例を的確に選択すればローリスク・ハイリターンの治療になり得ると考えられます。

日本循環器学会の適正使用指針によると、本治療はCHADS2スコア（CHA2DS2-VAScスコア）に基づく脳卒中および全身性塞栓症のリスクが高く、長期的に抗凝固療法が推奨される非弁膜症性心房細動患者のうち、出血の危険性が高い患者が適応となるとされています。つまり心房細動でDOACやワーファリン内服が必要だけど、消化管出血や頭蓋内出血、転倒して怪我をするなどして困っている症例が非常に良い適応になると思われます。また、透析中で抗凝固療法をやめられない患者さんも非常に出血リスクが高く左心耳閉鎖を考慮すべきと考えられます。

昨今、急速な高齢化により日本人の疾病構造が変化しており、予防医学はより広い概念を含むものになってきています。このWATCHMANによる治療も広義の予防医療に含まれ、健康寿命延伸のための有効な治療法であると考えられます。

心房細動で抗凝固療法が必要であるにもかかわらず、出血リスクが高い患者さんや塞栓症を繰り返す患者さんがいらっしゃれば是非我々にお声掛けください！

循環器内科はコチラから Click!
<リンク先> 愛媛県立中央病院ホームページ

❹ 第130回医療連携懇話会について

産婦人科　主任部長　阿部　恵美子

第130回医療連携懇話会が令和5年9月13日に愛媛県立中央病院講堂での現地開催とZoomを用いたハイブリッド形式で開催されました。たくさんの方のご来場、ご視聴をいただき、この場を借りて御礼を申し上げます。今回のテーマは「周産期における最近の話題～産まれる前も産まれたあとも、時代に負けないサポートを目指して～」でした。前回、周産期分野の医療連携懇話会を開催したのは令和元年7月でした。その後、新型コロナによるパンデミックがあり、私たちの生活を大きくかえてしまい、周産期分野においても様々な問題が生じていますが、その中でも「お産」は絶えることなく続いています。コロナ禍での周産期分野の診療や最近の話題について4名の演者に講演をいただきました。

最初に産婦人科部長　池田朋子先生から「産婦人科　最近の話題」と題して、講演をしていただきました。当院の概要（分娩数、搬送数、帝王切開率など）の提示の後に、当院で昨年はじまった非侵襲的出生前遺伝学的検査（NIPT）の成績、新しく承認され投与が可能になった先天性サイトメガロウイルス感染児に対するバルガンシクロビルの投与や、梅毒感染妊婦への投与により母子感染予防を期待できるベンジルペニシリンベンザチン水和物の紹介がありました。どちらも妊娠中の感染症として重要なものであり、特に梅毒は近年急増し先天梅毒が懸念されるため、新しい薬剤の効果が期待されます。

次に新生児内科部長　井上博晴先生より「新生児領域における昨今の治療や検査、育児環境について」と題して講演をいただきました。NICUの治療成績の提示、従来から行われていた先天性代謝異常を早期発見するための新生児マススクリーニングから対象疾患を大幅に拡大したタンデムマス・スクリーニングの解説・成績、令和3年10月より新たに開始した拡大新生児スクリーニングについての現状について報告がありました。また、昭和・平成時代の「子育て」と令和の「子育て」について、時代にあった、かつエビデンスに基づいた「子育て」について理解いただけるよう訴えがありました。

3つ目は産科病棟　勝村しおり助産師より「コロナ禍の母乳育児支援」と題して講演をいただきました。新型コロナの蔓延により、分娩時の立ちあいや産後の面会制限など、妊婦・褥婦にとって厳しい環境が続いています。また、分娩時に新型コロナに罹患した妊婦さんは分娩後隔離となるため、母乳育児確立のため大切な時期に母児分離とならざるを得ません。そのような中で、母乳育児を確立するために、助産師、隔離病棟を含む看護師、褥婦がどのように対応していったかを発表いただきました。当院はユニセフ認定のBaby friendly hospital（BFH）として活動しています。今後も母乳育児支援に力を入れたいと考えています。

最後に、新生児集中ケア認定看護師 谷 春香看護師より「リトルベビーハンドブックを使用した退院支援」と題して講演をいただきました。当院は愛媛県で唯一の総合周産期母子医療センターのため、たくさんの低出生体重児が出生しています。通常、妊娠したら母子健康手帳が交付され、赤ちゃんの出生後も大事な健康手帳として乳幼児医療にも活用されています。

しかし、母子健康手帳は成熟児を対象としているため低出生体重児の発達発育に対応しておらず、低出生体重児の記録ができない、成熟児の発達と比較してしまい児に合わせた発達を客観的に判断できない、などの問題がありました。リトルベビーハンドブックを使用することにより、それぞれの児に合わせた評価や情報共有ができること、実際にリトルベビーハンドブックを使用し退院支援を行った低出生体重児とその両親の事例が紹介されました。

国難とも言える異次元の少子化の中、一つ一つの妊娠、産まれてくる命、母親の安全だけではなく、父親を始めとした家族のサポートも重要となっています。愛媛県唯一の総合周産期母子医療センターとして、周産期医療の最後の砦として、これからも愛媛県の皆様と病診連携を行っていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

赤ちゃんにやさしい病院について Click!

産婦人科はコチラから Click!

新生児内科はコチラから Click!

<全てのリンク先> 愛媛県立中央病院ホームページ

文句の多い医者のつぶやき

⑤「同じゴールを目指したい」

医局長・泌尿器科　岡本 賢二郎

ゴールと言えばSDGs・・持続可能社会を目指すためのゴールが有名だろう。地球上で人類が持続的に繁栄できないことが判明し、問題解決のため国連で決めた共通目標だ。（図１）論議はニュースネタにもなり興味深いが「実存は本質に先立つ」で改善しない状況が見え隠れする。わかりやすく言えばポジショントークが多い。そのため、あえて高い目標を掲げることで行動や努力を最大限に引き出すという手法をとったがリソースの乏しい途上国では進捗の遅れが特に著しく壁に直面している。

（図１）

回りくどくなってしまったが、実は病院での改革でも同じだと、最近つくづく感じている。目標達成までの道筋を端折り、タイムラインも考慮せずゴールを目指しても改革は矛盾をはらんだまま迷走する。さらに悪いことに「公的病院として最優先すべきこと」までもが多様化し、目指すゴールが実は異なっていることもある。文句をつけると法的コンプライアンスを盾に保身、いや失礼、反論することが多いが、そもそもゴールが異なるため、議論が成立しないのだ。相手に届く言葉で語りあうこともないままに時が過ぎ、虚しさのあまり虚無僧（図2）にでもなりたくなる。

それでは医療者でもある公務員が優先して共有すべき価値観倫理観は本来どうあるべきか。例えば当院が掲げている理念は1つ「県民の拠り所となる病院であること」これはSDGsのゴール3「すべての人に健康と福祉を」への道でもあり理念に留まらず達成すべき重要な目標と言えよう。シンプルでいいと思う。コンビニ受診が増えても困るが、病に罹った時に「拠り所となりたい気持ち」を共有したうえで議論すれば持続可能な病院への道程が見えてくるのではないだろうか？

（図2）

⑥地域医療連携室からのお知らせ

今後各種ご案内やお知らせ（医療連携懇話会案内・地域連携室便りなど）はメール配信を推奨させていただきたいと考えております。他、県立中央病院ホームページのタイムリーな更新情報も順次配信予定です。メールでの配信を希望される医療機関様につきましては、お手数ですが、下記メールアドレスへ医療機関名を記載し、送信をお願いいたします。

ご意見ご希望も
<件名>メール登録（医療機関名）
<本文>医療機関住所、電話番号

E-Mail： c-renkei@eph.pref.ehime.jp

メールのご登録で医療連携懇話会の動画配信が半年間ご覧いただけます！

動画配信3つのポイント！

① お好きな時間に
② 繰返し再生！
③ 3密回避

※ 懇話会動画視聴のみご希望の方もご登録できます。ぜひお申し込みください。

お問い合わせ
愛媛県立中央病院　地域医療連携室　<担当>箱岡・三好
TEL：089-947-1111(代) FAX：089-987-6271　E-mail：c-renkei@eph.pref.ehime.jp

次回の医療連携懇話会のお知らせ

第132回医療連携懇話会
進化し続ける血液疾患の治療

日時　令和 5年 11月8日(水) 19:00～20:00
座長　臨床研修センター長・血液内科　名和 由一郎
演者　『造血器腫瘍の治療の進歩について』
血液内科　主任部長　中瀬 浩一
『多発性骨髄腫の診断のポイントと最近の治療について』
血液内科　部　長　佐伯 恭昌
『悪性リンパ腫の最近の治療について』
血液内科　医　長　上田　怜
『急性骨髄性白血病の最近の治療について』
血液内科　医　師　諫見 俊宏

<リンク先>
愛媛県立中央病院　ホームページ
お申込・詳細はコチラから Click!

媛さくらネット

地域医療連携ネットワークサービス　媛さくらネット

閲覧無料

<現在閲覧できる項目>
・処方・注射・検体検査・病名・退院時サマリ NEW
・画像（放射線、エコー、生理検査）（4月1日以降の情報）
・循環器動画・放射線画像診断レポート

お申込・詳細はコチラから Click!

<リンク先> 愛媛県立中央病院ホームページ

地域連携室便り

次回11月号(No.42)は11月中旬頃刊行の予定です。お楽しみに！

メール登録のご案内

地域医療連携室では各種ご案内やお知らせのメール配信を推奨させていただいております。

登録していただくと…

限定公開！
医療連携懇話会動画を
ご覧いただけます！

さらに

医療連携懇話会のご案内、
地域連携室便りの更新が届きます！

ホームページのタイムリーな
更新情報等もお知らせ予定です！

動画視聴のみ希望される医療機関関係者の方のご登録も受け付けております

【お申し込み方法】

①メールからのお申し込み

申し込み先メールアドレスへ、以下を記載し送信してください。

<件名>　メール登録（医療機関名）

<本文>　医療機関住所・電話番号

※動画視聴のみの希望の場合は「動画のみ」と記載をお願いします。

申し込み先メールアドレス　：　c-renkei@eph.pref.ehime.jp

②この用紙でのお申し込み

以下にご記入をお願いいたします。

<医療機関名> ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

<医療機関住所> ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

<電 話 番 号> ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

※動画視聴のみ希望の場合はチェックをお願いします。　□ 動画のみ希望

<メールアドレス>

登録するメールアドレスのご記入、またはチェックをお願いします。

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ @ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

□　今回の医療連携懇話会に申し込んだメールアドレスを登録します。